

奄美空港脱炭素化推進計画(概要)

1 基本的な事項

- 空港の特徴
奄美大島の北東臨海部の埋立地に立地。
2019年度の乗降客数は88.5万人，航空貨物は911.0t，着陸回数は7,931回。
- 空港の脱炭素化に向けた方針
ターミナルビル・庁舎等において，照明LED化及び高効率空調への更新，航空灯火のLED化，車両のEV・FCV化，バイオ燃料の導入，再生可能エネルギーの導入等に取り組む

2 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量[t/年]	
	2013年	現状(2019年)
空港施設	1404.7	784.0
空港車両	70.8	90.0
空港施設・車両 計	1475.5	874.0
(参考) 航空機	700.0	910.0

3 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46%以上削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

4 主な取組

- 2030年度:ターミナルビル・庁舎等の照明及び航空灯火のLED化，空調の高効率化，太陽光発電設備の新規導入，車両のEV・FCV化
- 2050年度:太陽光発電設備の拡大，蓄電池設備の新規導入，車両のEV・FCV化，バイオ燃料の導入



その他の取組

- 地域連携・レジリエンス: 災害等による停電時におけるEV，携帯電話，一部照明への電源供給
- 意識醸成・啓発活動: 協議会の定期的開催を通じた関係者への意識醸成
空港利用者への啓発活動
- 環境価値の購入: 排出係数「0」電力購入等の検討